

ARTS PRESSES

KANAGAWA



CREATOR'S VOICE 113 神奈川芸術劇場 芸術監督

宮本亜門

「神奈川芸術劇場(KAAT)に託す夢」
2011年1月オープン
「神奈川芸術劇場(KAAT)のミッションと展望」
生誕200年記念 ショパンに注目!
神奈川国際芸術フェスティバル

宮本亜門

Amon Miyamoto 神奈川芸術劇場芸術監督

神奈川芸術劇場 (KAAT) に託す夢

2011年1月の開館に向けて
4月7日、宮本亜門さんの
芸術監督就任記者会見が行われました。
これからどのような企画を
「創造・発信」していくのか。
新劇場に託す夢を語っていただきました。

—まずは、芸術監督に就任された今のお気持ちから聞かせてください。

日本経済が厳しいこの時期に、新しくできる公的な劇場の芸術監督ということで、嬉しい反面、実を言えばプレッシャーや責任の重さも感じています。とはいえ僕の中では、新しい劇場で何かを新たに始めるというよりも、「再生」というイメージがあるのも事実。独自の歴史や文化を持ち、日本が大きく変わっていった出発点ともいえる開国・開港の地、神奈川県に建つ文化施設だけに、新しく何か生まれるというよりは、今まで継承されてきた文化を、次に発展させていく場所でもあるのだな、と。かつては西洋の文化を取り入れてきたこの場所を、今度はここから発信する場所にしていきたいですね。

—劇場のテーマとして、どのようなことをお考えですか。

僕はあえて、この劇場では「いかに生きるか」をテーマにしたいと考えています。今回、自分でも改めて「劇場って、なんだろう?」と考え、いろいろな人と話をする中で、劇場はどの時代も“人間のことを考える場所”であり、演劇は“人と人のかかわり”で“個々の心に触れられるもの”であると思いついたからです。そう考えると、生きづらいといわれる今の時代に、演劇が担える役目は小さくありません。同時代性を持った公共の劇場として、楽しさや面白さを提供するだけでなく、「我々はいかに生きていくか」をともに考える場にしたいと思っています。

—具体的に、どういった演劇を上演していこうと考えているのでしょうか?

1つのジャンルにこだわらず、いろいろなものを上演するつもりです。大勢の皆さんに「こんな表現もできるのか」「人はこんなことでも感動できるんだ」と知って欲しいと思っているので。もちろん、劇場内のホールやスタジオで上演するものだけが演劇ではなく、そこに人がいて「あっ!」という発見や感動があれば、それはもう見事な演劇空間だと捉えているので、路上や広場で上演するものもあるだろうし、県内各地へ広がっていてもいい。そういう実験的な作品や現代アートも含めて、好奇心や



想像力をくすぐり、人間の可能性の広がりを感じさせるようなものを、提示していきたいと考えています。様々なクリエイターの力を借りて、僕も一緒に変わっていききたいし、触発しあうことで、より豊かな化学反応が起こればと思っています。

—そういった幅広い表現を提示していく中で、劇場自体が担う役割は何でしょうか？

人と人や、情報や表現活動を結ぶハブ(中心、拠点、集線基地)です。イメージとしては、そこへ行けばいろいろな人と出会い、情報が得られるコミュニケーション広場。山のように可能性が広がる、遊び心いっぱいの場所になりたいですね。実はそれが、僕が芸術監督を引き受けた大きな理由でもあります。

—そんな劇場に“KAAT(カート)”という愛称をつけた意図は？

親しみをもって、自分の家の離れや親戚の家に遊びに行くような感覚で来てほしいという思いからです。「神奈川芸術劇場」というと、ちょっとかしこまった印象がありますよね？そこで、あるデザイナーの方をお願いして柔らかい呼び名を考えました。「ちょっとカートに行こうかな」と、コーヒーでも飲みに行くような軽い気持ちで、足を運んでもらえたら嬉しいです。

—オープニング作品は三島由紀夫の『金閣寺』ですね。亜門さんという“ミュージカルの人”というイメージがありますが、なぜこの作品を？

実は「柿落としはミュージカルで」という提案も多方面からいただきました。でも僕たち日本人の目は、西洋のほうを向き過ぎているのではないかと。足元にある宝の山を、本棚にしまい込むのではなく、もっと今に活用で

きないか……そんな思いから、あえて初年度は日本文学を探るところからスタートしたいと考えました。そういう視点で『金閣寺』を読むと、僕自身も引きこもりだったこともあって、成長の過程で悩みもがく主人公の感覚が、肌で痛みを感じるほど伝わってくるんです。様々な演劇のスタイルを含めた、違うスパイスや味付けを加え、また劇場ならではのマジックでお客様の想像力に訴えながら、そんな作品の魅力を“生のもの”として立ち上げたい。日本の持っていた素晴らしい精神性や考え方が、観る人の心に響く瞬間があれば、結局それは自分たちが受け継いできたものの再確認にもなると思います。

—亜門さんのカラーが生かされた、バラエティに富んだ面白い劇場になりそうですね。

そうですね(笑)。もともと僕は、日本舞踊や茶道や映像が好きで、そこに溢れるアイデアや空間演出の妙に魅せられたことから、演出家になったような人間ですし、僕の中では昔も今も、演劇、オペラ、ミュージカル、アート……といった境界がないんです。その境界のなさが、この劇場に多彩な色を出すことに役立つのかなあと感じています。子どもの頃から好奇心旺盛で、これまでいろいろなものに興味を示し、自分なりのクリエーションを重ねてきた僕自身を、この劇場の道具として面白く使っていけたら嬉しいですね。この劇場でいろいろな人たちと、ああでもない、こうでもないと言いながら「人間は無限の可能性を持っている」ということを、広げていきたいと思っています。

(取材・文 岡崎 香 / 写真 大野純一)



宮本亜門 (みやもと・あもん)

1987年、オリジナルミュージカル「アイ・ガット・マーマン」で演出家デビュー。2004年に、「太平洋序曲」をニューヨークのオンブロードウェイにて上演。東洋人初の演出家デビューを果たし、同作品でトニー賞の4部門でノミネートされる。ミュージカルのみならず、ストレートプレイ、オペラ等、現在最も注目される演出家として、国内外で活動の場を広げている。2009年5月には、横浜開港150周年記念式典のプロデューサーとして、オリジナルショー「ヴィジョン!ヨコハマ」を演出。2010年4月、神奈川芸術劇場芸術監督に就任。また2010年6月にはロンドンのウエストエンドでミュージカル「ファンタスティックス」での演出家デビューが決まっている。

COLUMN

今月の小コラム

亜門さんにQ&A

—横浜という町のイメージを。

海のある町。あまりにも海が好きなので、海にすぐ行けるのが嬉しいです。横浜って「過去と未来」が面白くマッチしているところだと思うんです。古い建物も残っていて、ホッとできますね。

—横浜でお気に入りのスポットを教えてください。

大栈橋で船の出入りを眺めながらぼーっとするのは気持ちいいですね。中華街も好きです。中には関帝廟には独特の世界観がありますね。

楽しいのは野毛山動物園。とても素朴で昭和の良さが残っているところですね。古き良き時代にタイムスリップした感じがします。また、次々と

新たな創作が展開される「急な坂スタジオ」や「BankART」もすばらしい。

まだ行っていないのは根岸の競馬場跡。これからは横浜に限らず、神奈川のあちこちを歩きたいですね。

—最近関心のあるアートについてお話を。

コンテンポラリー・アートが好きで、海外・国内あちこち見に行きます。去年はヴェネツィア・ビエンナーレに行って、たいへん刺激を受けてきました。国内では、香川の直島(ベネッセアートサイト直島)。年に一度は行かないと気が済まないほど気に入っています。瀬戸内海の自然・風土・歴史、

そして人々との関わりのなかから生み出されたアートを体験できるのは、わくわくしますね。「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館」も好きなので、香川にはよく行きます。人が温かいし食べ物もおいしい。本当に幸せな気持ちになります。

直島にも作品があるアーティスト、ジェームス・タレルが大好きで、彼が制作した新潟の「光の館」にも泊まりに行きました。行ったときちょうど誰もいなくて、タレルの空間を一人占め！最高の時間でしたよ。

神奈川芸術劇場(KAAT)の ミッションと展望



建築中の神奈川芸術劇場（撮影：森 日出夫）
（上段左から→下段右へ）2008年12月／2009年2月／2009年3月／2009年6月／2009年8月／2010年2月

神奈川芸術劇場の建築も大詰めを迎え、2011年1月の開館に向けた準備が着々と進んでいます。劇場建設、そして劇場運営のコンセプトづくりにも深く関わる館長の眞野純に、神奈川芸術劇場の社会的役割、展望について、語ってもらいました。

神奈川芸術劇場は3つの「つくる」、「1.モノをつくる…芸術の創造」「2.人をつくる…人材の育成」「3.まちをつくる…賑わいの創出」を、ミッションとして掲げています。まずは、このミッションについて……。

「モノをつくる」の“モノ”は作品という意味です。作品づくりは芸術監督である宮本亜門さんが主に担うわけで、それを支えていくのが我々劇場スタッフの仕事だと思っています。しかしこのミッションはすごく長い時間のかかる仕事です。まず“モノ”をつくるためには、“人”をつくる必要があります、“人”をつくるためには、それが根ざす“まち”をつくらなければいけない。大きな循環です。開館に向けて最終コーナーを曲がったいま、その大きな循環をこの劇場を中心に展開する最初の段階に入ったと思っています。我々も解答をもっているわけではなくて、モノをつくりながらさぐっていくわけで、時間がかかるでしょうけど、いずれこの劇場が神奈川広域の芸術文化の中心機能を備えていって、大勢の人で“まち”が賑わっていけば、と思います」

2つ目の「人材の育成」というテーマには、さまざまな劇場や劇団で「プロダクションマネージャー」として、主に技術面で作品の創造を支えてきた眞野館長の、思いがにじみます。

「僕は劇場の中でいろいろな役割をやってきました。様々な要素が複雑にからみ合う中で、モノづくりというのは実現していく。だからなおさら思うのかもしれませんが、演劇のモノづくりにとって、フィジカルな(具体的な作業をとまなう)部分はとても大事なことだと思うんです。しかしそういうモノをつくる人たちの役割や力があまり考慮されていない現状がある。でもその人たちを見失ってしまうと、ややもすると作品の“芯”がなくなってしまうことがある。演出家、作家、俳優、作品がほんとうの意味で力あるものになるためには、そのフィジカルな部分が十分に発揮し尽くされてないと難しいんです。だから、フィジカルな部分に携わるいわば大きな匿名性



眞野 純 (まの・じゅん)

1987年文化庁芸術家在外研修員として、ロンドン・ロイヤルオペラハウスにて舞台美術・技術を学ぶ。

舞台監督、技術監督として、蜷川幸雄、串田和美、野村萬斎など

多くの日本を代表する演出家の作品に関わる。

1997年～2007年、世田谷パブリックシアター技術監督。

2010年4月より神奈川県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)館長。

KAATを支えるクリエイターたち

#1

長谷川祥久
香山壽夫
建築研究所

毎号一人ずつ神奈川芸術劇場(KAAT)のクリエイターにご登場いただき、劇場のハード、ソフトの特徴を紹介していくコーナー。
第1回は、建築の設計を担当した長谷川祥久きちおさんです。

の塊である人たちを、大事に育てていくことのできるシステムをつくっていききたい。それが“人材の育成”ということかな、劇場では。

他にも大事なことがある。劇場でなければならない、生涯教育と子ども達のための活動。“人をつくる”には、じっくり取り組んでいきたいと思っています」

神奈川芸術劇場は、近接する神奈川県民ホール本館と一体運営されます。演劇、ミュージカル、ダンス等を中心に自主制作を旨とする芸術劇場と、大規模ホールを抱えオペラ、バレエ中心の県民ホールが、役割分担するわけです。さらに、舞台芸術の広域拠点になり、公共劇場として県内外に向けて発信していく社会的使命もあります。最後にその展望、夢を語ってもらいました。

「この劇場のいちばんの特徴は、自分たちで作品、モノをつくることのできることで、さらにそれを外に持ち出せる力がある、ということだと思います。演出家や現実的に作品をつくることのできるスタッフを抱え、さらにプロデューサーが全国的なネットワークを構成し、海外にも通路を開いてゆく。だから、全国に向けて、あるいは海外にも発信できる。神奈川芸術劇場は、そういう舞台芸術のネットワークの大きな交差点、プラットフォームでありたいなど、思っています。そのことが、神奈川県全体の文化政策のバランスのなかで捉えられ、高度な機能を持つこの劇場を中心に、芸術文化活動が活発化、活性化していき、はじめに言った3つの“つくる”が大きな循環になっていくと信じています。楽しみにしてください」

(取材・文 渡辺美和子)

神奈川芸術劇場の
愛称が決まりました。

KAAT

読み方は「カート」です。
どうぞよろしくお祈りします。

—新劇場の設計コンセプトをお話してください。

当初から、劇場はNHKの上、5階に置く、つまり「空中に上がった劇場」をつくるのが前提条件としてありました。人やモノの出入りの多い劇場の性格を考えると、この条件はマイナスになります。そこで私たちはこのリスクをプラスに転化するべく、次のポイントを検討課題としました——NHK以外の1階のスペースをどのようにつくるか、空中の劇場までお客様をどのように誘うのか。——劇場のコンセプトづくりはここから始まっています。

まず1階のスペースを誰でも入れて楽しめる「広場」ととらえ、そこから5階の劇場までの道程を楽しく体験できるルートを考えました。5階の劇場入り口までは、自然光の入る大きな吹き抜けのアトリウムを軸にスパイラル状に配置した4種のエスカレーターで上がることになりました。この劇場には「モノをつくる」というコンセプトがありますので、それを感じていただけるよう、途中で役者たちが練習するスタジオなどが見えるように配置しています。渓谷のかけ下を入れていくような空間もあり、5階までの道中を楽しんでいただけたらうれしいです。

—宮本亜門さんからリクエストはあったのでしょうか？

たいへん貴重な助言をいただきました。宮本さんは「観客の目」を非常に大切にされていて、駅からこの劇場にきて客席にたどりつくまでの過程すべてで楽しませたいとお考えでした。また、建物のあち



建設中の神奈川芸術劇場、アトリウム大階段(2009年10月)

こちに「人がたまる場所」がほしいとおっしゃいました。これらは私たちが当初から提案していた視点と非常に近く、気持ちよく、ご一緒にアイデアを練り上げることができました。

—そして劇場のホールの中に入ると…壁が赤なのですね。

舞台と客席を区切る枠であるプロセニウムと客席勾配が大きく可変でき、自由でオープンな舞台をつくれる特徴を生かして、色、形、空間のつくり方を考えました。宮本さんから「中に入ってもう一回驚かせて」と言われ、より個性を出すようなデザインになりました。いるだけでわくわくする、そう思っていただけになればいいなと思います。

劇場のフロアガイドなど、施設案内はホームページで！
<http://www.kaat.jp/>

COLUMN
コラム

写真家

森 日出夫



劇場完成の過程を撮影する森日出夫さんは、移りゆく横浜の風景を、「森の観測」と名付けて長年撮り続けています。

いま新劇場ができるまでの過程を撮っていますが、かつて逆のことをしていたことがあります。思い出のある好きな建物がどんどんなくなっていくのを見て、「破壊と再生」というテーマで、建物が壊されて鉄骨になるまでを撮影したのです。そういうふうには、自分が気になる場所を撮影することで、自分なりの「町の記憶」を残してきました。

横浜で生まれ、これまでずっと横浜に住んでいます。小さいとき親父に連れられて、本牧、伊勢佐木町の映画街、南京町といわれた中華街をはじめいろいろなところを歩いた記憶はいまでもはっきり僕

のなかにあります。昭和30年代後半ですね。それから横浜は随分変わりました。もともと進取の気象に富み、新しいものを取り入れて変化してきた町です。これからも変わっていくでしょう。

「記憶を残す」ことは、単なるノスタルジーではありません。「昔はよかった」とただ懐かしむだけでは進化していきませんからね。けれども、町の記憶というのは、次の世代に伝えるために、しっかり残していかなければなりません。僕が横浜の町を撮り続けているのは、少しでもそれに役立つことができればという思いからです。

*KANAGAWA ARTS PRESSでは、裏表紙に森日出夫さんが撮影された「横浜の場所」を掲載していきます。

ショパンに注目!

2010年は
数々の名ピアノ曲を残した
ポーランドの作曲家
フレデリック・ショパンの
生誕200年記念イヤーです。
県内の公演からショパンを
テーマにした公演を
ピックアップしてみましょう。



1 記念イヤーに世界中が注目する中、5年ぶりにスターが誕生する

新世代のショパン弾きを発掘してきた「ショパン国際ピアノコンクール」。5年に一度、ポーランドのワルシャワで開催されているが、生誕200年にわく今年の10月には第16回大会が予定され、すでに今から世界中の注目を集めている。2人の日本人入賞者が生まれた前は、インターネットで予選からの速報が流れるなど、一般ファンも審査に参加しているような気分を味わえた。今年の盛り上がりにも期待!

2 天才もやっぱり子どもだった!? 似顔絵に才能を発揮した少年時代

一流の芸術家として崇拜されているショパンだが、ひとりの人間としても興味深いキャラクター。モーツァルト同様に天才ぶりを発揮した少年時代、得意としていたのは漫画(似顔絵、風刺画など)ともまねだったらしい。学校の先生を描いた似顔絵などが残っており、彼もまた純真な子どもだったことが伝わってくる。有名ピアニストのまねや即興芝居なども見事で、役者を目指したら?と言われたことも。

3 ポーランド人としての誇りを表明 心臓だけで里帰りをしたショパン

39年の生涯中、その後半を主にパリで過ごし、ついに祖国のポーランドへ戻れなかったショパン。しかし彼の心はいつも故郷にあり、ポーランド人としての誇りを忘れなかった。そのシンボルといえるのが、ワルシャワの聖十字架教会に安置されている彼の心臓。死の床にあったショパンは、故郷から来た姉に「心臓だけを持ち帰って」という遺言を残したのだ。彼の墓はパリにあるが、心はポーランドで安らぎを得ている。

(オヤマダアツシ)

>PICK UP

クリスチャン・ツィメルマン 究極のショパン オール・ショパン・プログラム

6月11日(金)19:00開演
横浜みなとみらいホール
ショパン:ピアノ・ソナタ第2番「葬送」、
第3番 ほか
S席15,000円 A席12,000円
B席9,000円 C席(売切)
お問合せ:神奈川芸術協会
☎ 045-453-5080

フィリア・ハイムコンツェルトシリーズ ショパン生誕200年記念 “ショパンへの誘い”

第1回 清水和音
6月13日(日)15:00開演
フィリアホール
ショパン:幻想ポロネーズ、
バラード第4番、2つの夜想曲作品55、
スケルツォ第4番 ほか
S席5,000円 A席4,000円
学生席(当日残席がある場合のみ)1,000円
お問合せ:
フィリアホールチケットセンター
☎ 045-982-9999

スーパートリオ3°C(きんどしー)

7月3日(土)
14:00開演・19:00開演(2公演)
横浜市栄区民文化センターリリス
出演:石田泰尚(ヴァイオリン)、
金子鈴太郎(チェロ)、清塚信也(ピアノ)
ショパン:ピアノ三重奏曲作品8、
チャイコフスキー:偉大な芸術家の
思い出に ほか
各4,000円
お問合せ:横浜市栄区民文化センター
☎ 045-896-2000

神奈川フィルハーモニー管弦楽団演奏会案内

第264回定期演奏会

6月26日(土)14:00~
横浜みなとみらいホール

指揮 小泉和裕

ヴァイオリン 矢野玲子

ブラームス/ヴァイオリン協奏曲ほか

S 6,000円 A 4,500円

B 3,000円 学生(B) 1,000円

お問合せ:神奈川フィル・チケットサービス ☎045-226-5107(平日10:00~18:00)

<http://www.kanaphil.com>

聖響 音楽堂シリーズ

「ロマン派の響き」第4回

7月24日(土)15:00~

県立音楽堂

指揮 金聖響

メンデルスゾーン/序曲「ルイ・ブラス」ほか

S 4,000円 A 3,000円

学生(A) 1,000円

神奈川近代文学館 企画案内

生誕80年「開高健の世界」展

(同時開催:文学の森へ 神奈川と作家たち展 第1部)

開高の生誕80年を記念し、開高健記念会と、県内ゆかりの作家として資料の収集・保存を続けてきた神奈川近代文学館とが共催で行う「文学館交流展」。

6月12日(土)~8月1日(日)

*休館日は毎月曜日(7月19日は開館)

一般 400円 学生 200円(高校生以下、65歳以上は無料)

9:30~17:00(入館は16:30まで)

神奈川近代文学館 第2展示室

〒231-0862 横浜市中区山手町110 ☎045-622-6666

第17回 神奈川県国際芸術フェスティバル 2010年4月18日(日)~7月22日(木)

神奈川県民ホールと県立音楽堂を会場に、神奈川県国際芸術フェスティバルが開幕! 6月以降の演目をご紹介します。

ラインナップの詳細は特集ウェブサイトです! <http://www.kanagawa-arts.or.jp/>



**神奈川県民ホール開館35周年記念
 カール・オルフ「カルミナ・ブラーナ」**

約400人の合唱団と魅力的なソリスト達でお贈りする合唱付き管弦楽。
 県民ホール大ホールならではの壮大なスケールの演奏にご期待ください!
 曲目: ショスタコーヴィチ/祝典序曲、ストラヴィンスキー/組曲「プルチネルラ」、
 オルフ/世俗カンタータ「カルミナ・ブラーナ」
 指揮: 現田茂夫、ソプラノ: 幸田浩子、テノール: 高橋 淳、バリトン: 堀内康雄、
 管弦楽: 神奈川県フィルハーモニー管弦楽団、
 合唱: 神奈川県民ホール特別合唱団、小田原少年少女合唱隊
 6月6日(日) 16:00開演 県民ホール大ホール
 S6,000円 A5,000円 B3,000円 学生(24歳以下)2,000円

デザインの港2 浅葉克己展 東洋的核なもの西洋的核なもの

☞詳細はホールニュースの県民ホール小ホールページ
 7月7日(水)~22日(木) 10:00~18:00[無休] 県民ホールギャラリー第2・第3展示室
 *入場は閉場の30分前まで。最終日は16:00閉場
 入場料: 一般500円 学生・65歳以上400円
 高校生以下・障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

スーパー・アンサンブル・トウデイ!

I テレム・カルテット

ロシアの民族楽器による全く新しい音楽、
 今ヨーロッパで大人気のユニークなアンサンブル。
 当意即妙のトークを交え、遊び心満点、
 まさに大人のエンタテインメント!
 曲目: J.S.バッハ/フーガと舞曲、フーガと歌曲
 R.シチェドリン/アルペニス風に、ピアソラ/ブレパレンセ 他
 7月3日(土) 15:00開演 県民ホール小ホール



II スーパー・チェロ・アンサンブル・トウキョウ

国内オーケストラの首席奏者やコンクール上位
 入賞者ばかり12名が一堂に会して奏でるサウンドは、
 「チェロ」という楽器の多彩な魅力と可能性を
 最大限に引き出します。「スーパー・チェロ」ここにあり、
 と唸らせる名演奏をぜひお楽しみください。
 曲目: ソッリマ/チェロよ歌え!、
 川島素晴/12人のイカれたチェリスト、ピアソラ/リベルタンゴ 他
 7月17日(土) 15:00開演 県民ホール小ホール



I II 各日 全席指定 一般3,800円 学生(24歳以下)2,800円



スウェーデン放送合唱団 (指揮:ペーター・ダイクストラ) ☞詳細はホールニュースの音楽堂ページ

6月19日(土) 16:00開演 全席指定 一般5,000円 学生(24歳以下)3,000円 特別ペア券(売切)

主催: 神奈川県民ホール 神奈川県立音楽堂 (ともに指定管理者:公益財団法人 神奈川県芸術文化財団)

チケットのお求めは

インターネットチケットセンター(24時間受付)
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc>

県民ホールチケットセンター **045-662-8866** (10:00~18:00)
 音楽堂チケットセンター **045-263-2255** (13:00~17:00月休)

神奈川県芸術文化財団からのお知らせ

平成22年3月26日付けで神奈川県知事より公益財団法人として
 認定を受け、平成22年4月1日「公益財団法人 神奈川県芸術文化財団」
 として新たなスタートをいたしました。
 ※詳しくはホームページから <http://www.kanagawa-arts.or.jp/>



神奈川県芸術劇場「KAAT」ホームページ公開
<http://www.kaat.jp/>

2011年1月オープン予定の神奈川県芸術劇場のホームページを
 オープンしました。施設概要やフロアマップ、利用申込み、
 アクセスガイドなどの情報をお知らせしております。(随時更新)

協賛ご芳名
神奈川県国際芸術フェスティバル
 第17回神奈川県国際芸術フェスティバルを開催しております。本フェスティバル開催にあたり、
 皆様よりご支援をいただいております。ここにご芳名を掲載し、感謝申し上げます。
 公益財団法人 神奈川県芸術文化財団

- 【協賛】
- 株式会社アクトエンジニアリング
 - 株式会社浅岡装飾
 - 学校法人岩崎学園
 - 株式会社ヴォール
 - 株式会社NHKアート
 - 株式会社神利庵
 - 財団法人神奈川県経営者福祉振興財団
 - 神奈川県信用保証協会
 - 神奈川県民共済生活協同組合
 - 神奈川県理容生活衛生同業組合
 - 株式会社神奈川保健事業社
 - 神谷コーポレーション株式会社
 - 川本工業株式会社
 - かをり商事株式会社
 - 株式会社キョウエイ装備
 - キリンビール株式会社
 - 株式会社ケイエスピー
 - グレッツ・ジャパン・スズケン株式会社
 - 株式会社合同通信
 - 生活協同組合コープかながわ
 - 国際警備株式会社
 - 株式会社さか美
 - 相模鉄道株式会社
 - 株式会社JM&カンパニー
 - 株式会社ジェイコム湘南
 - シルクセンター
 - 鈴鹿かまぼこ株式会社
 - 生活クラブ生活協同組合
 - 株式会社清光社
 - 全労済神奈川県本部
 - 大栄電子株式会社
 - タカナシ乳業株式会社
 - 月島機械株式会社
 - 東京ガス株式会社
 - 東京電力株式会社神奈川支店
 - 東工株式会社
 - 東神工業株式会社
 - ナイス株式会社
 - 日産自動車株式会社
 - 株式会社野毛印刷社
 - パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社
 - 平安堂薬局
 - 株式会社ホテル ニューグランド
 - 株式会社マインドウェア
 - 丸茂電機株式会社
 - 三沢電機株式会社
 - 森平舞台機構株式会社
 - 株式会社山武 ヒルシステムカンパニー横浜支店
 - ヤマハサウンドシステム株式会社
 - 株式会社有隣堂
 - 株式会社豊商會
 - 株式会社ユニコン
 - 株式会社横浜アーチスト
 - 横浜エレベータ株式会社
 - 株式会社横浜銀行
 - 横浜新都市センター株式会社
 - 横浜トヨペット株式会社
 - 【協力】
 - 神奈川県総合設備株式会社
 - 神奈川県自動車株式会社
 - 株式会社崎陽軒
 - コカ・コーラ セントラル ジャパン株式会社
 - サッポロビール株式会社
 - 鈴鹿かまぼこ株式会社
 - 株式会社東芝首都圏南支社
 - 株式会社野毛印刷社
 - 野村證券株式会社横浜支店
 - 三菱地所株式会社
 - 【かながわアーツ倶楽部法人会員】
 - 株式会社ウォール
 - 株式会社神奈川新聞社
 - かをり商事株式会社
 - 株式会社鈴鹿蒲鉾本店
 - tvk
 - 東工株式会社
 - 奈良建設株式会社
 - 株式会社野毛印刷社
 - 横浜信用金庫
 - (匿名法人1、個人1)
- 2010年4月23日現在

WHAT'S ON? 01

横浜・山下町周辺のアート、コンサート、イベント情報ピックアップ

横浜美術館



「アキレスとキローン」フレスコ
ナポリ国立考古学博物館蔵
©Luciano Pedicini / Archivio dell'Arte

ポンペイ展 世界遺産 古代ローマ文明の奇跡

いよいよ6月中旬まで!

古代ローマ時代の繁栄を現代に伝える貴重な遺跡ポンペイ。彫像や壁画、食器やアクセサリーなど、当時の生活を伝える数多くの発掘品で歴史ロマンを感じる。開催中～6月13日(日)

大人1,400円、大学・高校生1,100円、中学生800円
お問合せ: ☎03-5777-8600(ハローダイヤル)

神奈川県民ホール(小ホール)



ドルチェ

パイプオルガン・プロムコンサート 出演:ドルチェ(西優樹&伊勢えみい)

現代的な教会を思わせるホールに、重厚かつ荘厳なオルガンのサウンドが響き渡る。約30分、入場無料のミニ・コンサート。新緑の横浜散歩と一緒に気軽なクラシック体験を。

6月17日(木)12:20開演 / 14:30開演 入場無料
お問合せ: ☎045-633-3686(神奈川県民ホール)

臨港パーク、みなとみらい21地区、ほか



第29回横浜開港祭

関東一早い!と評判の横浜港花火大会や船舶への乗船体験、世界の食べ物を楽しめるキッチンやライヴステージなど。家族で楽しめる、開放感あふれる3日間。

5月29日(土)・30日(日)・6月2日(水)
お問合せ: ☎045-212-5511(横浜開港祭実行委員会)



森さんぽ 1

森日出夫さん撮影の写真でめぐる横浜散歩

港の見える丘公園

新緑の美しい5月に撮影。公園内に歴史的建造物がいくつかあり、文化の香りを味わいながら最も横浜らしい風景を楽しめる場所です。夜景も美しくデートコースとしても有名。

行き方:みなとみらい線 元町・中華街駅から徒歩7分



県内のアート情報はここで探そう!

<http://www.kanagawa-at.info> 「かな@」で県内のアート情報を検索できます。

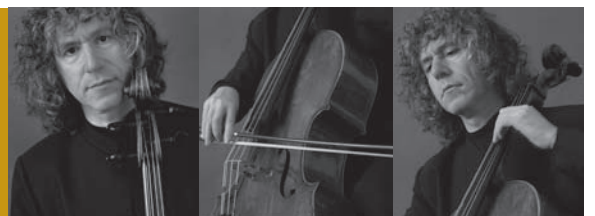
STEVEN ISSERLIS CELLO RECITAL

スティーヴン・イッサーリス チェロ・リサイタル

ピアノ: コニー・シー

2010年
6/17(木)19:00 紀尾井ホール

サン=サーンス: チェロ・ソナタ第1番 八短調 op.32
ショパン: チェロ・ソナタ 短調 op.65
リスト: 忘れられたロマンス
フランク: チェロ・ソナタ イ長調



©Tom Miller

チケットのお問合せ・お申込み:
カジモト・イープラス 0570-06-9960
<http://kajimotoeplus.com/>

主催: KAJIMOTO 後援: プリティッシュ・カウンシル
協力: 株式会社 東京エムプラス / ソニー・ミュージックジャパン インターナショナル

全席指定 ¥8,000